

【ねがいましては】

平成27年1月23日

KYOWA SCHOOL

第291号

「愛の反対」

昨年、俳優の高倉 健さんが亡くなりました。その後のTV局の高倉さんを忍ぶ番組の中に興味深い言葉をうかがうことができました。

「愛の反対は『無関心』だから、僕は無関心ではいけないんです……。」はっきりとは覚えていないのですが、高倉さんの生き方の原点がそこにあるのではないかと、強く印象に残りました。

簡潔に考えると、無関心な生き方をしているということは、『愛』がない、ということ。すぐさま浮かんだのは、子どもたちの現実です。あまりにも学校での勉強に無関心すぎるのではないかと……。ということは、子どもたちは『愛』を全く持ち得ないまま日々を過ごしている……。それって教育なのか……。それって学校なのか……。

とても極端なのかもしれませんが、そう思えてならない気持ちが、私を包んでしまいました。

マララさんのメッセージの中に、「なぜ、銃を与えることはとても簡単なのに、本を与えることはとても難しいのでしょうか。なぜ戦車をつくることはとても簡単で、学校を建てることはとても難しいのでしょうか。」と、ありますが、マララさんの言う学校には、間違いなく『愛』が溢れているはずで。

学ぶことに関心を抱き、「なぜ……そうなんだ……わかった」というワクワクさせるような学校像があるはずで。

しかし、今の日本の現状はどうなのでしょう。日々、成績に脅かされ、結果に不安が募り、意欲は姿を消し、毎日、何事もないようにと、静かに座っている子供たちが多くいることを、どのように受け止めたらいいのでしょうか。

きざな言い方かもしれませんが、『愛』ある学校が本物の学校であり、無関心を決め込んでしまうような子どもたちが生活する場所が学校ではないことを、前面に出さなければならぬのではないかと……。

経済大国日本、ほぼ100%の子どもたちが学校へ通う日本、その数字を誇りにしているような感がありますが、通っていればOKではなく、学校へ無関心のまま通っている子たちを削除した数字が、真の学校へ通う子供なのではないのでしょうか。そうなるといったい何パーセントの子たちが学校へ通っているのか……。

新しい年を迎え、さらに心を、身を引き締めて、高倉 健さんのいう『愛』を求めていきたいと感じました。

ここへ来る子たちの中に、かなり高いパーセンテージで「成績だけ上がればいい、しかも楽に。」というお子さんがいらっしゃいます。私は口を開くたびに「あなた方が悪いわけではない、成績偏重の雰囲気が出来上がってしまっている環境が悪いんだよ。」と言います。「そうか、そうだったんだ。」と、理解は示してくれても、なかなか一度込みこんでしまったものは、そう簡単に切り替えることはできません。

「成績がすべてではないんだよ。いかに前向きに歩こうとしたか、その過程が大切なんだよ。一度ついてしまったトラウマから必死に脱出しようとする心、その心が大切なんだよ……。」

跳び箱が苦手な子、プールが苦手な子、縄跳びが苦手な子、このような現象は、表面に現れやすいので発見が可能なのですが、勉強についてのトラウマを抱えている子の発見は、簡単なものではありません。

体育の時間に、泣きながらも跳び箱を飛ばそうとする子は間違いなく100点。飛んだ高さで評価ではなく、飛ばうとした心の度合いに評価を付けるべきだと思います。

算数の計算に、過去、いやな思い出を持っている子（簡単な計算を黒板上で間違えてしまい、周りからひんしゅくの声を受けた）が、やがてやってきた黒板上の計算に、手を震わせながらゆっくりと数字を書く姿に100点です。

その光景を指導者はクラス全員で応援するよう促すことが……『愛』。

書き終えた瞬間、「このクラスの皆に会えてよかった。」と、思えるような授業が『愛』。

青色発光ダイオードの発見で、ノーベル賞を受賞した天野 浩教授（54）は、同じく受賞した、赤崎 勇教授（85）が、数千回失敗があつたにもかかわらず、いつもと変わらない前向きな実験を繰り返されていた。その光景がなかったら、今の発見は得られなかった。と、おっしゃっていたのが強く心に残っています。

失敗や間違いを繰り返しながら成長していく……。このことが学びの土台にあって初めて、教育なのではないのでしょうか。

子どもたちの心の奥深くに宿ってしまった強いトラウマ……。そのトラウマを退治すべく授業のあり方を考えていかなければなりません。授業と言っても、ここでの授業は全体授業ではありません。必ず子どもの目を見ながら、今、どのように私の言葉を受け入れているのか、目の前の子の心を覗き込みながら言葉を並べるようにしています。

前向きに聞こうとしているのかな。分かった振りをしてしまっているのかな。説明なんて聞いてらんねーよ、なんて思いながら聞いているのかな。いろいろ詮索しながら言葉を並べます。

きょうも、明日も、あさっても、あなた方に興味をもって接しさせていただきます。

助け合う勉強。励ましあう勉強。間違えたとき、思わず「ニコッ」としてしまふ勉強。冷やかしなど一切ない教室。100点が良くて、0点は悪いなどというムードなど全くなく、ただただ、ここに通う皆は、僕たちの、私たちの仲間たちなんだという教室。理想が高すぎるのでしょうか。子どもたちには無限の可能性があります。ありがとう。